



# 七松小学校 学校だより

令和2年度  
8月・9月号  
尼崎市立七松小学校  
校長 江上佳宏

## 新しい学習指導要領がめざすもの

### ～2030年頃の社会を見据えた教育改革に向けて～

今年度は、小学校学習指導要領が全面実施されています。来年度から順次中学校、高等学校でも実施されます。

学習指導要領は、2030年頃の社会を見据え、更にその先に豊かな社会を築くために教育が果たすべき役割は何かという視点に立っています。

2030年頃の日本は、少子高齢化が更に進行し、生産年齢人口も大幅に減少すると見込まれています。また、人工知能（AI）の進化により、人間が活躍する職業がなくなるのではないかと予測されています。

一方で、情報技術の進歩が経済や文化のグローバル化を加速させる中、先を見通すことが益々困難になりつつあります。こうした予測困難な時代に必要なのは、解き方の決まった問題を効率的に解いたり、受身で対処したりすることではありません。変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら主体的に学び、試行錯誤し、他者と協働しながら自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけることが求められているのです。

このような資質能力を育むためには、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子どもたちがどのように学ぶのかについても光が当てられ、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。これは、これまでと全く質の異なる指導方法を導入するのではなく、今までの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎ、子どもたちの実態や学習内容に応じた指導の工夫・改善を図るものです。

また、これまで小学校5・6年生で実施してきた「外国語活動」を「外国語科」として教科化し、「外国語活動」を3・4年生に前倒しして実施します。「外国語活動」は、活動型の学習として、コミュニケーション能力の素地を養うことや外国の文化に親しむことを目的として行う学習活動です。それに対し「外国語科」は、教科型の学習として、英語を活用できることが目標となっています。こうした小学校での改革が注目されますが、中学校・高等学校の習得すべき英語力の目標が引き上げられており、グローバル社会で活躍する人材育成が明確になっています。

学校が編成する教育課程の基準となる学習指導要領改訂の背景や方向性を保護者や地域の皆様と共有し、教職員とともに、これからの地域社会を創り、主体的に未来を創造する子どもたちを育成するために引き続きお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、8月18日より2学期が始まりました。更なる新型コロナウイルス対策や台風等、まさに、予測困難な情勢の中でのスタートとなります。本校教職員一同、子どもの健康・安全を第一義として、学習指導要領のめざす、知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力の育成、人間性の涵養等の実現を目指します。